

学校法人 高田学苑
高田短期大学育児文化研究センターだより

IKUBUN NEWS

第8号 2008.6.15

発行 高田短期大学育児文化研究センター
〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
TEL 059(232)2310(代表) FAX059(232)6317

育児文化研究センターと「子育て応援隊」

育児文化研究センターの事業内容は、育児文化に関連する研究会と情報発信、地域に密着した子育て支援事業、研究員・客員研究員を県内各地に派遣する出前講座等があります。子育て支援事業は、昨年度は新規事業「絵本の読み聞かせ」「マタニティコンサート」を追加し、23回の実施で1,100名余の参加がありました。また、委託を受けて実施した「パパ教室」や自治体、民間団体の企画した子育て支援関連イベントに参加し、県内における様々な子育て支援活動と連携したネットワークができつつあります。また子育て支援を目的とした活動に学生が学内外に活動する「子育て応援隊」が、子ども学科の総合演習ボランティア精神の活動とともに、特色ある平成19年度大学教育支援プログラム（特色GP）として採択されました。このような学生をまきこんでのセンターの子育て支援事業は地域子育て支援ボランティア活動体験型教育ともいえます。センターの機能が一つ追加された年でもありました。平成19年12月「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議において少子化対策の重点戦略がとりまとめられ、「働き方の改革による仕事と生活の調和の実現」と「家庭における子育てを包括的に支援する枠組みの構築」の2点が中心施策として提言されました。平たくいうと「ワークライフバランス」と「育児支援の充実」でしょうか。この後者の「育児支援の充実」のためには地域の保育や育児力の向上が重要ですが、「子育て応援隊」はその意味からも意義がある活動であり、学生と共に取り組んでいきたいと考えています。今後とも地域の皆様をはじめ客員研究員の皆様、ご協力ご支援をよろしく願います。

育児文化研究センター長 梶 美保

平成20年度重点事業 子どもの夢を育む地域支援プロジェクト

本年度は、「子どもひろば」「絵本の読み聞かせ」「子どものための製作ひろば」「マタニティコンサート」「クッキング」「馬とふれあう親子フェスタ」に「子育てママのホッとひろば～子どもの自由あそびと育児相談～」が新規事業として追加し企画しました。地域の方々のご参加をお待ちしています（詳細は3頁参照）。

- ◇ センター長挨拶
育児文化研究センターに求められているもの
平成20年度重点事業
子どもの夢を育む地域支援プロジェクト
…1頁
- ◇ 平成二十年総会報告
平成十九年度事業報告
・組織・研究員
…2頁
- ◇ 平成二十年度事業計画
平成二十年度出前講座のご案内
総会特別講演概要
「高虎公に学ぶ親の姿勢と子どものしつけ」
椋本 千江先生
…4頁
- ◇ 定例研究会報告
新入会研究員の紹介
問い合わせ・アクセス
…5頁
- ◇ …6頁



平成20年度 文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム事業 (特色G.P.)
子どもの夢を育む地域支援事業

子育てママの「ホッと」ひろば

日時：平成20年6月21日(土) 10:00～11:30
場 所：高田短期大学 育児文化研究センター(1号館3階) 195
主 催：子育て支援センター 高田短期大学 育児文化研究センター
協 賛：高田短期大学 津市教育委員会 (公益財団) 津市子育て支援センター
内 容：子育て相談 (高田短期大学産科 産科心療士)
絵本読み聞かせ
● 子育てママの「ホッと」ひろば
子育てママの「ホッと」ひろばは、子育てママの悩みや不安を解消し、子育ての楽しさを伝えるための場です。子育てママの悩みや不安を解消し、子育ての楽しさを伝えるための場です。子育てママの悩みや不安を解消し、子育ての楽しさを伝えるための場です。

申し込みは子育てママの「ホッと」ひろば事務局まで
申し込み先：子育てママの「ホッと」ひろば事務局
〒514-0115 津市一身田豊野195
TEL: 059-232-2310(代表) FAX: 059-232-6317

お問い合わせ先：子育てママの「ホッと」ひろば事務局
〒514-0115 津市一身田豊野195
TEL: 059-232-2310(代表) FAX: 059-232-6317

主催：高田短期大学 文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム事業 (特色G.P.)
協賛：高田短期大学 津市教育委員会 (公益財団) 津市子育て支援センター

高田短期大学育児文化研究センター 平成20年度総会（5月9日）概要

平成19年度事業報告<平成19年4月～平成20年3月分の実績>

1. 育児文化研究センター総会（5/8）
2. 定例研究会（4回開催）出前講座（47件）
3. 子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業
 - ・「0・1・2歳児のための『子どもひろば』」0歳児（6/23 9/29 11/10）1・2歳児（7/28 10/13 12/15）
 - ・「子どもの夢を育むクッキング」（6/30 10/12 12/15）
 - ・「子どもの夢を育む絵本の読み聞かせ」（6/30 9/8 1/19）
 - ・「子どもの夢を育む児童館・学童指導員のためのセミナー」（7/10）
 - ・「子どもの夢を育むバルーン講座」（8/5 1/20）
 - ・「子どもの夢を育むマタニティーコンサート」（10/20）
 - ・「保育者のためのパソコン教室」（12/16）
 - ・「教育講演会」（2/9）
 - ・「親と子のための音楽あそびひろば」（2/16 3/20）
 - ・「子どものための製作教室」（2/16）
4. 学校行事
 - ・「おもしろ父親教室『パパと楽しく遊ぼうよ!』」（10/22）
 - ・「馬とふれあう親子フェスタ」（11/23）
5. 子育て応援隊
自治体等外部からの要請に応じ、子ども・子育て関連のイベント等に「子育て応援隊」として本学学生が参加。29件の実績。
6. センター後援・共催事業
 - ・「保育者のためのベビーマッサージ講習」（5/24 6/16）〈お産・子育て環境を考える会主催〉
 - ・「子どもパソコン教室」（8/2, 8/5）〈情報ボランティアみえ主催〉
7. 育児文化研究センターだより「IKUBUN NEWS」 6月・2月発行
8. 紀要『高田短期大学育児文化研究』第3号 3月発行
9. 出前講座の実施
52件の実績
10. 育児文化研究センターホームページの管理

☆ 平成20年度運営委員

梶 美保（育児文化研究センター長） 榊原 尉津子（主任研究員） 千草篤麿 福西朋子 池村 進

☆ 平成20年度組織

センター長	梶 美保
主任研究員	榊原 尉津子
研究員	池村進 市田敏之 植木存 梶美保 榊原尉津子 武川真固 千草篤麿 手嶋慎介 内藤由佳子 長岡さとみ 橋本景子 平田祐子 福西朋子 三宅啓子 山崎征子 山本敦子 わげびき真澄 鷺尾敦（以上、本学専任教員）
客員研究員	安藤はるみ 池上綾子 今吉久美 岩附啓子 浦中浩一 大蔵香代子 川喜田多佳子 駒田聡子 鈴木照美 田口鉄久 田中厚好 中井千保子 朴恵淑 望木郁代
顧問	櫻井 實（三重大学名誉教授、医学博士） 谷岡 経津子（四日市大学総合政策学部教授） 太田 和子（高田短期大学非常勤講師）

平成 20 年度事業計画<平成 20 年4月～平成 21 年3月>

1. 総会 5月9日(金曜日) 16:30～
特別講演 「高虎公に学ぶ親の姿勢と子どものしつけ」 講師 椋本 千江先生(作家 高虎研究家)
2. 定例研究会 年間4回 (7月23日 10月15日 12月3日 2月18日)
それぞれの研究活動に取り組んでいる研究員・客員研究員が報告し検討し合っています。
3. 子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業の実施
本年は、7分野 16回開催予定です。
4. 「子育て応援隊」派遣事業 随時
公共性が高い、自治体・民間団体からの子育て支援の要請に応じて学生と研究員を派遣しています。
5. センターだより「IKUBUN NEWS」 年2回発行(6月・2月)
育児文化研究センターの最新情報を発信しています。
6. 紀要「高田短期大学育児文化研究」第4号 年間1回(3月)刊行
研究員・客員研究員の研究成果の場となっています。
7. 「出前講座」37分野 講師派遣 随時
8. ホームページ
活動の「お知らせ(ポスター)」・「活動内容」を随時掲載

子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業計画内容

- ① 子どもの夢を育む 子どもひろば(於:本学育児文化室)
○7/12(土)・10/4(土):0歳児対象
講師:鈴木照美研究員 山中希和(助産師)
○6/28(土)・11/15(土):1・2歳児対象
講師:榊原尉津子研究員 山本敦子研究員
- ② 子どもの夢を育む 絵本の読み聞かせ(於:本学育児文化室)
○10/11(土)・11/9(日) 講師:中井千保子客員研究員 生川はるみ(子ども読書研究家)
○12/13(土)・1/17(土) 講師:安藤はるみ客員研究員 岩附啓子客員研究員
- ③ 子どもの夢を育む キッズクッキング(於:本学調理室)
○6/13(金) 講師:駒田聡子客員研究員
○12/13(土) 講師:鷺見裕子(高田短期大学人間介護福祉学科准教授)
- ④ 子どもの夢を育む マタニティコンサート(於:アスト津 アストホール)
10/18(土) 演奏者:未定 コーディネーター:増田久美子(ブライランテ代表)
- ⑤ 子どもの夢を育む 子どものための製作ひろば(於:本学造形演習室)
8/31(土) 講師:わけびき真澄研究員
- ⑥ 子どもの夢を育む育児相談「子育てママのホッとひろば」(於:本学育児文化室)
6/21(土) 10/18(土) 11/22(土) 講師:橋本景子研究員
- ⑦ 馬とふれあう親子フェスタ 11/23(祝・日) (本学構内・馬場)



出前講座

地域貢献事業の一つとして、県内各地の研修会や学習会などに出前講座として講師派遣にいたします。平成20年4月～平成21年3月分の企画は4ページのとおりでございます。ご活用ください。



■お問合せ先 高田短期大学育児文化研究センター(担当:梶)

- ① TEL. 059-232-2310 (内線123) <電話応需時間>月・水曜日の9:00-12:00
- ② メールアドレス ikubun@takada-jc.ac.jp

平成20年度出前講座派遣企画一覧

No.	講座内容(テーマ)	(内 容)	(対 象)	氏 名
1	科学の心を育む「ときどき工作入門」	身の回りの素材を活用して簡単なおもちゃを作っていくなかで、「なぜだろう?」という素朴な疑問を引き出し、それについて、やさしく解説します。	幼児・小学生とその保護者	池村 進
2	知的障害(児)者とその家族への相談援助	障害者の福祉サービスにかかる援護の実施主体が市町村に移されたが、当事者の思いや願いに向かい合う相談支援の体制づくりの課題の達成は急務である。相談支援の職員を養成することも又大事な課題である。	市町村障害福祉関係職員、民生委員、児童委員など	植木 存
3	子育て不安と子育て支援	子育て不安の社会的広がりや現代の家族問題を福祉の視点から見つめるとともに子どもの背後にある親の生活の全体性を理解しながら子どもの最善の利益について考える。	市町村保育担当者、保育所関係者、民生委員、児童委員など	
4	0・1・2歳児の発達と子育て、保育	0・1・2歳児の発達のすじみちと、具体的な子育ての技術、大切にしたい子育てのポイント等。	保育者、保護者	梶 美保
5	乳幼児の健康	乳幼児期からの生活習慣を整えることの大切さや、現代の子どもの健康の課題など。		
6	乳幼児期からの食育	乳幼児期からの食育の重要性について。	保護者、一般	
7	親子で楽しむ ふれあいあそび	家庭でできるふれあいあそびを楽しみましょう。	幼児とその保護者(20~50分程度)、講座時間(50~60分程度)	榊原尉津子
8	福祉のこころと児童虐待	子どもをめぐる福祉の状況をふまえて、福祉のこころを考える。その上で児童虐待の解決方法を探ってみる。	保育関係者・保護者	武川眞固
9	障害児保育について	各種障害の理解、発達段階に応じた保育 等	保育関係者、保護者	千草篤麿
10	企業における子育て支援と柔軟な働き方	企業における多様かつ柔軟な働き方の推進など、子育て支援の取り組み事例について。	一般市民	手嶋慎介
11	子どもの心、現代の子育てのあり方について	子育てで迷っている大人(先生や保護者)への一助となれればと思っています。スクールカウンセラーの経験を活かし。	保護者、幼・小・中の教員、保育士	橋本景子
12	子どもとのコミュニケーションのとり方と言葉づかい	子どもとの関わり方をコミュニケーションサイクルに従って学び、日本的コミュニケーションと言葉の役割について考える。	保護者、保育関係者	平田祐子
13	親子で楽しむふれあい歌あそびとミニコンサート	歌あそびを通して親子でふれあったり、生の音楽を聴いたりして、楽しい時間を過ごしましょう。	幼児とその保護者(20分程度)	福西朋子 山本敦子
14	幼児のリトミックあそび	「幼児の身近な事象や経験をテーマにしたリトミック遊び」の体験と教育方法	幼稚園・保育園(所)の職員	三宅啓子
15	子どもの歌あそび	楽しいコミュニケーションと表現遊びの体験学習	幼児教育関係者・幼児及びその親	
16	今子どもからのメッセージ	就学前の幼児をもつ保護者に入學までの親の対応、伸びる子の秘訣について考えたい。	保護者・保育者	山崎征子
17	子どもの遊びは人生の宝	「生きる力」が重要視されている今、保護者を中心に幼児期の遊びの意味と子どもの成長について考えたい。		
18	個育てと子育て	早期教育や偏差値が取り沙汰される社会に育った親や、子育て中の保護者と個育てについて考えたい。		
19	各種ワークショップ(造形関係)	シルクスクリーンによるTシャツづくりや簡単な手作りおもちゃ、鼠やウグイス笛、フリクションドラムなどの伝承おもちゃの製作。	小学生	采・真澄
20	造形あそび	子どもが楽しく取り組める描画活動や制作活動の紹介とその実践。	保育・幼児教育関係者	
21	子どもの造形表現を支える	子どもの造形表現の意味や発達段階、指導における要点など	保育・幼児教育関係者、乳幼児を持つ保護者	
22	電子絵本制作	子どもが楽しめるマルチメディア電子絵本の制作の方法について学び、簡単な作品を作る。	幼稚園・保育園等の関係者	鷺尾 敦
23	園のホームページ制作	題材を園の情報発信として、ホームページの制作方法から公開までの知識と技術を学ぶ。		
24	子どもパソコン教室	発達段階に応じた子ども向けのパソコン体験教室。基本的に何かを制作することを通して、コンピュータリテラシーを身につける。	小学生低学年、高学年、中学生	
25	家庭の日常生活に於ける子育て	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている子育てについて。	乳幼児をもつ母親、父親	池上綾子
26	集団生活としての幼児教育・その具体的実践	幼児をとりまく環境とその問題点を踏まえ、今、求められている保育園・幼稚園における教育について。	保育者全般	
27	ベビーマッサージ体験	親と子の絆を深め乳児の心を育てるベビーマッサージの理論と実技。	保護者	今吉末宝(久美)
28	子どもの心とひびきあう保育	今の子どもたちには躍動感あふれる体験が必要、ドキドキワクワク、おもしろさを追求した保育実践。	幼稚園教諭、保育士	岩附啓子
29	絵本の楽しさ	絵本の読み聞かせと子どもの夢を育む絵本の魅力を探る。	幼稚園教諭、保育士、乳幼児を持つ保護者	
30	親子ふれあい遊び	音楽に合わせての楽しいふれあい遊び。(手遊び、パネルシアター、ペープサート等)	親子	浦中こういち
31	うたっておどってあそぼう	音楽に合わせてうたったり踊ったりする楽しい時間。(手遊び、パネルシアター、ペープサート等)	子ども(小学校低学年程度まで)・大人	
32	英語コミュニケーションの基礎	歌やチャンツを通して、英語のリズムに慣れる。ゲームとジェスチャーで英語コミュニケーションを図る。1行〜3行会話でコミュニケーション。	小・中学生	大蔵香代子
33	親子クッキング	親子で楽しく調理をし、「つくる たのしさ」を知る。(おかしなど) kid's in the kitchen	幼児、小学生とその保護者	駒田聡子
34	幼児期の食の大切さ	幼児期(学童期)の食のあり方についてわかり易く解説する。		
35	「造形あそび」による造形描画指導法	だれもが楽しめる描画造形技法とその指導法。	保育園・幼稚園・小学校の指導者(幼児など参加可能)	田中厚好
36	保育実践研究	保育内容、保育指導(援助)のあり方検討。	幼稚園教諭、保育士	田口鉄久
37	就学前教育・保育をめぐる課題	保・幼・小の連携、保護者・地域との連携などについて考える。	幼稚園教諭、保育士	
38	絵本であそぼう。	親・子ならではの ・絵本のよみかかせ ・絵本を探す	親・子・大人	中井千保子
39	ボランティア養成講座	・より豊かなボランティア活動をめざして ・よみかかせのための絵本のえらび方、聞き入れさせるには	ボランティア活動している人・やってみようとする人	
40	えほん・子ども・わたし	・絵本のよみかかせで出会った子どもそしてえほん	大人・先生・保育士	
41	環境教育(誰もが取り組める実践的環境教育)	身近な環境問題(大気汚染・水質汚染・ごみ問題)について講義または簡単な野外実験を行う。	保育園・幼稚園・小学校・中学校	朴 恵淑
42	NPO活動(身近な環境活動)	地域での環境問題への取組のできるNPO活動のあり方について講義。	一般市民・大学生・高校生	
43	実践的国際交流(民間レベル)	国レベルではなく、民間レベルで可能な国際交流について一緒に考え、実践的な取組可能なことから始める。	小学校・中学校・高校・大学・一般市民	
44	子どものこころとカウンセリングマインド	子どもの関わりでちよつとした大切なことに気づきましょう。	保育者・保護者	望木郁代

総会特別講演 高虎公に学ぶ親の姿勢と子どものしつけ

講師 椋本 千江先生（作家 高虎研究家）

平成 20 年 5 月 9 日（金）、平成 20 年度の総会后 17：10 より 18：10 分まで作家で高虎研究家の椋本千江先生による「高虎公に学ぶ親の姿勢と子どものしつけ」というテーマで特別講演がありました。講演は、高虎公が残した手紙や家臣がまとめた「藤堂高虎公遺訓二百ヶ条」から抜粋して現代にも共感の得られる親の姿勢や子どもへのかかわりかたやしつけについて、とても心に響く内容でした。次に内容の一部を紹介します。

○ 高虎公の半生

高虎公は、1556 年 1 月 6 日、近江の国に虎高を父に妙清を母として生を享けた。高虎は、7 人の主君に仕えたが、5 番目の主君、豊臣秀吉の弟秀長に仕える際、名を父の虎高を逆さにして「高虎」と名乗った。秀長に 300 石で仕えた後は、今治城 20 万石、そして津城 32 万石で徳川家康に仕えることとなる。高虎公は、主君に対して「仕えさせていただきありがたい」と常に感謝の気持ちでいたという。また、「やればできる」といった心持ちや「人を大事にする心」「先見の目」、そして「人より一つ秀でるもの」を持つという高虎の大名としての生き方は、主君の信頼を厚いものにしていった。家庭においても妻を大事にし、第 2 夫人との間に授かった 4 人の子どもたちへも愛情を持ってかかわった。その子どもたちとのかかわりの中で人としての生き方をどう教えるのか、しつけていくのかということが手紙に記されている。また、この手紙の内容と類似する教えを高虎が没し 34 年後、家臣によって「藤堂高虎公遺訓二百ヶ条」として作られている。



○ 高虎公の手紙・遺訓から

手紙や遺訓には家族愛、家族の絆の大切さが謳われており、このことを次の世代へ伝える役目を担っている。これらから、親の姿勢・子どものしつけについて現代にも通じることを取り上げると…。



～親の姿勢～

親の役目は子どもの「模範となる」こと、子どもに「自信を与える」こと、そして子どもに「チャンスを与える」ことである。子どもを愛して理解してかわること、何より笑顔をもつことが大切。親の権力の乱用、腕力に訴えることはもってのほかである。

～子どもへのしつけ～

生きている間の人としての生き方を教えるなかで、「心はいつも明るく」「命、時間を大切に」「人、物を大切に」「聞き上手で謙虚であれ」ということが大切であると伝えている。また、芸は身を助くというように「若いときに芸を覚える」こと、そして「仁 義 礼 智 信」を重んじることが人生を歩む上で大事であるとの教えである。「親は子どもに愛としつけの栄養水をたっぷりふりそそぎ「温かい心」を中心に「感謝」「思いやり」「信頼」「ほめる」「孝行」「努力」「笑顔」の花びらをもつ『愛情の花』を咲かせましょう」と話され講演を締めくくられた。

会場からは、「新しく発見したこと、改めて心に刻んだこと、今までを省みたことなど、生きていくうえで大切なことを多く気づかせてもらった」との弁が聞かれた。

〈ご多忙の中、大変有意義なご講演をいただき、ありがとうございました。満場拍手〉

定例研究会報告

第 18 回目の研究会が平成 20 年 2 月 20 日（水）16：30 から高田短期大学第 4 会議室にて行われました。今回は福西朋子研究員がレポーターで、テーマは「保育者養成校音楽教員の子育て支援へのかかわりに関する一考察～『親と子のための音楽あそびひろば』の企画・実践を通して～」でした。自身の音楽教員として、また子育て中の親としての立場から子育てイベントを企画し実践した旨が報告され、実践の様子がプロジェクターにより映像でも紹介されました。このように教員、学生、保育士と協働して行う子育てイベントは教育的な意義があることは明らかになったが、今、求められる「子育て支援」となっているかについては検討課題であるとし、今後のあり方についての一考も述べられました。

新入会研究員の紹介

山崎 征子研究員 (新入会)



三重大学附属幼稚園での保育実践を機に、保育者養成に関心をもち、愛知文教女子短期大学幼児教育学科で保育者養成に努めてきました。本年度から本学子ども学科に所属し「保育原理」「教育課程」「実習関係」等の授業を担当しています。

今年は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」が改訂され、幼児教育は即幼稚園の教育だけでなく、また保育所の保育だけでもない。新改訂による幼児教育は、特に従来よりも更に子どもの視点で「家庭・地域社会・幼稚園や保育所などの施設の三者による総合的な幼児教育の推進を図ること」が重要視されています。育児文化研究センターの活動を通して地域子どもたちや子育て中の方々、若い世代(学生)等、幅広い観点から、幼児教育を考える私の学びの場として活動していく所存です。よろしくご指導お願いいたします。

池村 進研究員 (新入会)



出前講座「科学の心を育む・どきどき工作入門」で三重県全域にご紹介させていただいております。

幼児は「科学の天才」です。何にでも興味をもち、「どうして?」の連発をします。そのときこそがチャンスです。子どもの疑問を丁寧に受け止め共感し、子どもの知的好奇心を満たし深めるような対応をすることが大切だと思います。

また、子どもは「おもちゃつくりの達人」です。身の回りのもの何でもおもちゃにしまいます。その過程で、実は子どもの心の中に「科学の心」が芽生え始めているのです。あらゆる機会を通して、子どもの好奇心や探究心を大切に活動を支援していきたいと考えております。

私の授業やゼミでは、よく八つつあんや熊さん、横丁のご隠居さんが登場します。落語に出てくる人は皆、善人ばかりです。「笑い」を伴うキャラクターとともに、子育て応援隊、がんばりまっせ!

中井千保子客員研究員(新入会)



保育園、幼稚園、小中高等学校、図書館や子育て支援などの場で「絵本の読み聞かせ」「朗読」を行い、子どもの読書活動推進に携わっています。「今日よりぞ 幼心を うち捨てて 人となりにし 道を踏めかし」(吉田松陰)

この精神を心に据え、歩んでおります。読み聞かせは何をおいても「心」に触れていくこと。常に子どもたちの同行者でありたいと念じています。絵本体験、読書は子どもの生きる力を養い育むに必要不可欠であることは、自明のこと。研究員としての場を与って子どもの読書心理を研究課題と、捉えて生きたいと思えます。その視点から、幼い心を照らす『適書』を探し当てることを第一とし、古典をはじめ、新たな作家の個性への出逢いを重ねていきます。今後とも、更なる実践を重ね、子どもたちに導かれながらこれらの課題に対し真摯に取り組んで参りたいと思えます。宜しくお願い申し上げます。

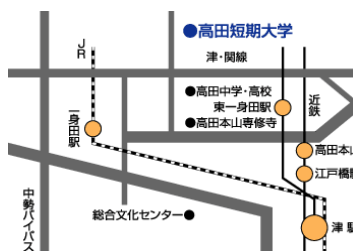
センター事務担当の小倉知子さんです!



今年1年間、縁の下の力持ちとしてセンター業務に携わってくださいます。よろしく申し上げます。

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学育児文化研究センター
住所 〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195
Tel (059) 232-2310
Fax (059) 232-6317
高田短期大学 内線 123 番
Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



～編集後記～
二十年度事業が始まりました。講座が始まるのを心待ちにしてくださいる方々も増えました。「子育て応援隊」の学生も活動を行うのを楽しみにしております。地域に根ざした活動と次世代育成を柱に今年の歩みを始めます。(T・F)